

花高同窓会会報



第125号

発行 令和5年3月1日

秋田県立花輪高等学校
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12
TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137

URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudousou/>

印刷 (株)北鹿新聞社



た校舎から旅立ちました。校門は今もあんとらあの裏に残っています。大きな桜の木が校門の周りにあり、桜吹雪と初恋の甘酸っぱい旧校舎の思い出が記憶の片隅に今も残っています。今の校舎の建設を眺めながら、陸上グラウンドの整備をさせられて、新校舎に入ることなく卒業しました。

私は尾去沢に生まれ、育ちました。当時、尾去沢は鉾山の絶頂期にあり、県内一の総合病院があり、今でいう総合デパートの購買会には近隣からも人々が押しかけてきました。明治の建築様式の協和会館では最新の映画が上映され、従業員住宅である長屋では電気や水道はタダで使い放題と



花輪高校同窓会 副会長
小田 修 (二〇期)

私たちは花高二〇期卒業生は、今の道の駅あんとらあの場所にある



▲旧校門の清掃

しかし、鹿角市には素晴らしい財産がいくつかあります。十和田八幡平国立公園をはじめとする自然遺産、ストーンサークル、大日堂舞楽、花輪ばやしや毛馬内盆踊りなどの世界遺産、さらにはリンゴや桃などの農産物、さらには温泉、湯治場、地熱、水力などの自然エネルギー等々。ほかの地域が

うらやむ資源です。これらを組み合わせ、自然と歴史を活用した観光開発や自然エネルギーを使う製造業の立地、果樹など高収益農業の拡大などの取組みを鹿角市が民間の力も借りながら進めています。昨年全国放送番組でも当



東京八幡平会幹事長・花栄会会計
田村 行 (二五期)

振り返ると五十年前、皆さんと同じように多くの友人達と共に花

新たなる旅立ち、
未来に向けて

この間農林省食品総合研究所で知り合った妻と結婚し、二女を得て、長女には孫が二人、男の子です。妻には残念ですが、四十六歳の時に先立たれました。肺がんでした。一年程加療しましたが、回復はかきません。当時、長女は中学二年生、次女は小学校四年生でした。有難かったのは、妻は一年の加療期間中に食事等の家事ができない私を思い、ご近所の奥様方に以後の手伝いをお願いしてくれたことです。また、会社にも上司からも恵まれました。子供たちのお陰で学校の先生と知り合う機会がで、今、コロナ禍で中断していますが、年数回お話をする機会が続いています。

他にも花輪高校OB会「花栄会」を通じて知り合った方々から八幡平中学校卒業者の会「東京八幡平会」を紹介され、今年からこの会のまとめ役をやっております。

間もなく古希を迎えますが、様々な壁に突き当たった時、家族や幼馴染達と培った「鹿角」での絆が、思い出が私を支えてくれま

大学の教授のお世話で民間の極東技術研究所という会社に九カ月勤務、その後、新聞募集で現在も勤めている明治神宮外苑に就職しました。(令和二年二月末定年退職後、嘱託雇用中)



▲第58回東京八幡平会

「お山」の一日は、朝四時起床後の坐禅・朝課で始まり、日中では、お勤め、行持、作務に学科、各自与えられた当役に追われ、夜

九時となつて今日一日の日程が終了します。その後は就寝を許されますが、誰一人として就寝する者は無く、目を擦りながらも各自課題の勉強時間に充てる為、毎日の睡眠不足は否めません。

法堂は隅々まで磨き上げられて、白い襪子は汚れません。毎朝、暗い内から動き出す台所。朝から晩まで何処からか鐘の音が聞こえ、薫じられたお線香の香りが届

てきます。山内では日常の至る所で、その有難みを感じられます。私達は、人と人との繋がりの中で生かされています。皆様の新しい生活に於いても「私」の先には、必ず多くの人達の有難みがあると

いたされました。

その様な生活を繰り返して一ヶ月が経った頃です。生活のリズムに少しは慣れても、覚えなければならぬ山ほどあります。一日の時間は限られているので「他人様の事より先ずは自分の事」。

今思えば、あの頃は毎日自分を追い込んでいた様にも思います。

正によって初めて高校在学中に「成人」となった世代、これまでの卒業生とは一味違う経験をした三年間だったと思います

「お山」の一日は、朝四時起床後の坐禅・朝課で始まり、日中では、お勤め、行持、作務に学科、各自与えられた当役に追われ、夜

九時となつて今日一日の日程が終了します。その後は就寝を許されますが、誰一人として就寝する者は無く、目を擦りながらも各自課題の勉強時間に充てる為、毎日の睡眠不足は否めません。

法堂は隅々まで磨き上げられて、白い襪子は汚れません。毎朝、暗い内から動き出す台所。朝から晩まで何処からか鐘の音が聞こえ、薫じられたお線香の香りが届

てきます。山内では日常の至る所で、その有難みを感じられます。私達は、人と人との繋がりの中で生かされています。皆様の新しい生活に於いても「私」の先には、必ず多くの人達の有難みがあると

いたされました。

その様な生活を繰り返して一ヶ月が経った頃です。生活のリズムに少しは慣れても、覚えなければならぬ山ほどあります。一日の時間は限られているので「他人様の事より先ずは自分の事」。

今思えば、あの頃は毎日自分を追い込んでいた様にも思います。

正によって初めて高校在学中に「成人」となった世代、これまでの卒業生とは一味違う経験をした三年間だったと思います

した。
今、皆さんは、戦争や病氣、不安定な経済等々、厳しい世の中に向かつて歩き出さなければならぬのですが、ご両親、ご兄弟そして友人達を大切に「生きていく」という強い意志を持って歩んで下さるようお願い致します。疲れた時はどうぞ「鹿角」に帰って、ご家族、友人達と会って心と身体を癒し、何度でも立ち上がって下さい。

最後に「世界で最も貧しい大統領」としてニュースで流れていたホルヘ・アルベルト・ムヒカ・コルダノの言葉を記します。
「奇跡というものが唯一あると

人影があつたので、不思議に思つた私は近づいて、その中の様子を伺いました。すると、そこには百畳程に敷き詰められた畳の一枚一枚を、額から玉のような汗を流しながら、只ひたすらに雑巾掛けをしている一人の古参和尚さんの姿があつたのです。

希望に満ちた旅立ちと、少し寂しい別れの春を迎えた卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

三十七年間に及ぶ教員生活の中で、大小様々な選択の場面がありました。もちろん、その全てで正しい選択ができたわけではありません。時には誤つた選択をし、逆境に立たされたこともありました。しかし、そんなときは先輩や同僚が手を差し伸べてくれて、どうにか壁を乗り越えることができました。自分の選択した道がどのようなものであっても、自分を活かせる道であることを信じて、これからの人生を切り拓いていってください。

人の有難み

長福寺 住職 吉田 順一 (四五期)

人生は選択の連続

鹿角市立十和田中学校校長 青山 秀人 (三四期)



花輪高校卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様が駆け抜けた高校生活の三年間。楽しい時も、悩んだ時も、そこにはいつも大切な仲間がいて、お互いに笑い、励まし合いながら、幾つもの壁を乗り越えてこられたのではないのでしょうか。私事ですが、花高卒業後は進学、そして実家のお寺を継がせていただく為に、横浜の曹洞宗大本山總持寺に於いて、一年間の仏道修行をさせていただきますました。



希望に満ちた旅立ちと、少し寂しい別れの春を迎えた卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

に、皆さんにとって幸せな人生が続いていることを心から願っています。



▲始業式での講話

人生の谷は充電期間

おせき内科 院長

尾関 知子 (二八期)



晴れやかな春の日に花輪高校をご卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様は、少なからず新型コロナウイルスに翻弄された三年間であったと思います。仙台育英高校野球部監督のお言葉にあったように青春とは本来密なものであり、そのような状況下であっても皆さんが良い意味での密な時間を過ごされた事を祈っています。

私は、岩手医科大学卒業後、東京慈恵医大勤務を経て平成十二年より名古屋で小さなクリニックを開業しております。毎日コロナ感

染者も診療していますが、ワクチン接種や治療薬の進歩、ウイルスそのものの弱毒化もあるのか、重症化する方は減ってきました。

自分自身の高校生活を振り返ると、好きな科目のみ勉強し、嫌いな科目は赤点、裏山にみんなでお弁当を食べに行き、授業中にペラペラと日向ぼっこするなどのんびりとしたものでした。高校を卒業すると今までは違う開放感があると思いますが、自由には必ず責任が伴います。皆さんも気をつけてね。

人生は、多くの先輩たちが言及されたように山あり谷ありで究極の二者択一を迫られる事もあるでしょう。頑張っているのに何をやっても上手くいかない事や、理不尽な思いをする事もあるでしょう。そんな人生の谷にうずくまっている時は、次のステップのための充電期間です。まずは心と身体の健康を守るため睡眠時間をとり、栄養のある食事をとりましょう。そして直面している問題だけで頭がいっぱいにならないよ



▲診察室にて

う、自分自身を甘やかす時間を少し作りましょう。あなたの側にはきつと寄り添ってくれる友人や家族や先輩がいるはずですよ。この期間に時間を費やして考えた事は、その時すぐに役に立たなくても、必ずその後の人生の糧になっているものです。

意気揚々と新しい扉を開け、仕事にあるいは進学に心を躍らせている皆様に多くの幸がありますように。心より応援しております。ご卒業おめでとう！

思いやりの心

鹿角広域行政組合消防本部

消防署小坂分署 消防士

宮本 海青 (七二期)



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。就職や進学など、それぞれの夢や目標に向かって過ごしてきたこの三年間を振り返り、皆様はどんな気持ちでいるでしょうか。

私は平成最後の年、約四年前に花輪高校を卒業し、卒業後は地元消防署に勤めています。既に社会人の方が長くなってしまったのですが、高校時代の思い出は今もまだ鮮明に覚えています。私の高校時代はまだ新型コロナウイルス

がどうしようもなく落ち込んだ時に差し込む希望の光でもありません。これから過ごす新たな環境にも様々な出会いが待っています。古くからの友人や新しくできる友人など、全ての人を大切に思い、困っているときは手を差し伸べてあげて下さい。手と手を取り、支え合いながら生き、優しさと思いやりで溢れて人生を歩んでほしいと思います。

皆様の今後のご活躍と健康を心よりお祈り致します。ご卒業おめでとうございます。

昨年一月、私は成人式の実行委員長として実行委員の仲間たちと共に企画や運営を行いました。鹿角の地に卒業した同級生たちが集まり、無事成人式を開催することができました。コロナ禍で長らく会えなかった友人と再会し、時には涙を浮かべる人もいました。同級生が一斉に集う会は成人式のみなので、そのような姿を見たときには心から開催することができて良かったと思います。

私が皆様に覚えてほしいことは、「友人とは心の支えであり、貴方も誰かの支えになっている」ということです。人間は一人では生きていけないという言葉はよく耳にしますが、本当にその通りです。友人という存在は共に楽しい時間を共有するだけでなく、自分



▲競技救助選考会



スキー部に激励金贈呈
—事務局—

一月中旬に行われた全県総体スキー競技で母校スキー部が活躍し、十五人の選手が山形インターハイに出場することになりました。

一月二十七日に同窓会から選手並びに三人の顧問の先生方に激励金を贈呈しました。激励式にはクロスカントリーに出場する三年生の古田、石井、小鮎の三選手と顧問の浅利先生に来て頂きました。学校統合まで後一年余りとなり、花輪高校の名前での全国大会

出場も残り少なくなっています。スキー部の全国での活躍を心から祈っています。



▲古田選手に激励金の贈呈



▲三年生と顧問の先生

事務局だより

一、統合後の同窓会について

鹿角三高校が来年四月に統合しますが、それに伴って花輪高校同窓会をどのようにするかについては役員会で何度も検討を重ねています。常任幹事会を開催して意見を聞き、総会で案を提出する予定です。

統合校の同窓会との関係についても、統合する三高校の同窓会役員で検討が続いています。まだ結論は出ていませんが、こちらも総会等で提案していきます。

それぞれ難しい問題が沢山あり、簡単には結論が出せないこと

二、閉校事業について

ですが、時期が迫っています。ご意見のある方は役員等に提案して下さい。下さるようお願い致します。

昨年十一月二十二日、第一回閉校事業実行委員会が母校で開催されました。同窓会と部活動後援会、PTAの各役員と先生方で構成され、会長には関厚同窓会長が就任しました。事業内容は記念式典と懇親会、記念品の作成、記念誌の発行、校旗降納式などを計画しています。

記念式典は今年の十月二十一日土曜日の午後、母校で講演会と式典を行い、その後ホテル鹿角で懇親会を開催する方向で検討してい

ます。具体的内容が決定次第ホームページに掲載しますので、参加して下さい。下さるようお願い致します。

閉校式のお知らせ

令和5年
10月21日(土)

詳細は随時ホームページでお知らせします。

総会開催のご案内

日時:令和5年5月19日(金)

18:00~総会・講演会/19:00~懇親会

場所 ホテル茅茹荘

申込 学校事務室 ☎0186-23-2126

金曜日開催としました。その時期になりましたら、案内をホームページ等に掲載しますので、お誘い合わせの上ご参加ください。



▲令和3年度同窓会総会の様子



吉村アイ (二九期)

今年のNHK大河ドラマは「どうする家康」。戦国時代を制し、日本史上唯一戦争のない平和な年月が二百年以上続いた時代の礎を築いた人物である。織田信長、豊臣秀吉の二大戦国武将に任せ、幼いときから辛酸なめ尽くした徳川家康が、数々の難事・難題に対し、家来と共に切り抜けて行く途中で「どうする? どうする!」と自問自答していく大河ドラマは、今までのない家康像が見られるのではないかと期待している。

いつの時代も世界のどこかで戦争が続いている。昨年一方的に始まったロシアのウクライナ侵攻も、一年になろうとしている。この戦争は、新型コロナウイルスの流行よりも世界に与える影響は甚大である。世界中のリーダーが、戦争を終わらせるために力を合わせなければならぬが、それは、日本が平和を維持するために軍事費を増額することではないと私は思う。